

岡崎むかし館通信

vol.21



<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。

今年の8月はオリンピックの話題で一喜一憂。そして9月はパラリンピックですね。何事も一所懸命に取り組む人を見ると、本当に心打たれますね。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩くー地方における勧進相撲の土俵四本柱ー

矢作川流域を岡崎との関係を求めて歩いていると、地方における相撲興行に関する資料を目にすることが数多くあります。番付表、巡業番付などが寺社に残されています。中でも珍しい安城市福釜町に残されている「相撲土俵四本柱」を紹介します。

江戸時代中期から発達した地方における勧進相撲は、江戸時代後期のおよそ100年間に職業相撲として定着し、現在の相撲協会の元となる組織が確立されました。当時地方の土地相撲で使用する土俵の四本柱屋形は、勝手に建てることはできませんでした。地元の有力な頭取の取次ぎにより、江戸相撲の有力年寄の許可を必要としました。相撲会所(現在の相撲協会)に属さないセミプロの興行を許さなかったことを意味しているように思います。また相撲興行自体も、藩や陣屋等為政者の出先機関の承認が必用であったので、四本柱土俵の免許制度は、為政者側も歓迎したことと思います。

安城市福釜町に残されている相撲土俵四本柱は、寛政元年(1789)に福釜蔵前に生まれ十両まで出世した力士、三河山惣兵衛が勧進元となって免許が与えられたもので、地方における勧進相撲に格式を与えるものであったようです。地方に四本柱が残るのも大変貴重なものです。

この柱には、次のような銘文が刻まれています。

【図1】 江戸年寄 頭取三河山惣兵衛
四本柱免許 清見潟(潟)又市
小頭 鶴ヶ関大平

【図2】 文久三年(1863)癸亥八月吉日



【図1】 相撲土俵四本柱(福釜町内会蔵)
※清見潟は現在も日本相撲協会に存続する相撲年寄



【図2】 「御免彫り」

免許された柱の刻み文字は「御免彫り」と言われています。安城市福釜町で保存され、安城市の有形民俗文化財に指定されています。

このような資料を通じて、例えば地方の人々の楽しみに絡んでいた利権や権力など、まだ解明できない地域の歴史の裏側を知ることができます。地域教材とのふれあいの醍醐味といえましょう。【N】

むかし館の活動より

夏休み子ども体験講座と社会科自由研究相談会の開催報告



りぶら開館当初から、社会科自由研究相談会を毎年実施しています。今年も社会科部の先生にご支援いただき、7月24日(日)と25日(月)の午前と午後の計4回開催しました。近年は、ワークシートを使った道具の体験講座と並行して実施しています。今年度は、相談も体験講座も例年より参加者が多く、賑やかなものとなりました。

相談内容の傾向としては、定番の家康関連や学区の歴史文化だけでなく、現在の暮らしに目を向けたモノまで実に様々です。参加者の増加は、社会科研究作品展のりぶら開催が認知されつつあることを感じさせます。むかし館もより多くの人に認知されるようにしたいです。

今年も10月に、りぶらギャラリーで「社会科研究作品展」を開催します。子どもたちが、一生懸命に取り組んだ研究の成果を見るのは大変楽しみです。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成28年9月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展示「くらしの道具ー今と昔ー⑬ 食具-膳」 ～ 9/13】

次回展示 【企画展示「昭和のひとコマ」 9/15 ～ 12/13】

平成28年度 【社会科研究作品展】 10/1(土)～10/11(火)
りぶら2階ギャラリー 最終日は17:00まで
【社会科研究作品発表会】 10/8(土) りぶら会議室103 10:00～11:30